

## アドバイス

### 建築系の就職

◆大学4年間の勉強で「一級・二級建築士」は取得できる

新入生に「どうして建築を学ぼうと思ったの？」と尋ねると、ほとんどの人が「建築の設計がやりたくて、建築士の資格が欲しい」と答えてくれます。確かに建築に関わる人にとって、大きな目標になります。一級・二級建築士は、大学の建築系の学科を卒業すれば、すぐに受験資格が与えられます。大学の講義や実習を深く学んで理解すれば取得可能です。しかし現実には、多くの学生が卒業してから仕事の合間をぬって建築士受験用の学校に入り、勉強をやり直しているのが実際なのです。だから大学4年間をしっかりと学び取り、卒業後の資格取得に着実に繋がれるように頑張りましょう。

◆先輩OBの実話から学ぶ：資格は身を助ける

本学の旧建築学科を卒業したS君の話です。彼は、まちづくりに興味があり、卒業研究では歴史的町並みの再生に取り組みました。ただ就職活動がうまく行かず、地元の建設会社に就職しました。それでも彼は配属された建設現場で一生懸命に頑張り、すぐに一つの現場を任せられるようになりましたが、まだ経験の少ない彼には日に日に重荷となり、退職に至りました。

ところがまもなく近くの市役所が、建築士の資格を持っていることを条件に職員募集していることを知り、S君は就職した年に二級建築士試験を合格していたので、早速応募したところ見事採用されました。現在、市役所都市計画課の技術職員として地域のまちづく

りに関わり、学生時代から興味があった仕事にたどり着いたのでした。資格が身を助けた実例です。

### 土木系の就職

◆推奨のことは：土木分野はやりがいのある仕事です

従来の土木工学は、主として開発に重点がおかれてきましたが、近年では、自然の保護、環境と開発の調和、さらに国際化や情報社会の波が押し寄せ、大きく変わろうとしています。そうした今後の社会環境の安心安全を支える土木分野は、実にやりがいのある仕事です。

就職は一生を左右する重大事ですが、希望する就職先に志望者が多ければ試験や面接などで選別されることとなります。このような時に履歴書に記載した資格が、自分の実力を示すものとして大変有利に働きます。大学4年間で出来る限り自分の努力で多くの資格を取得し、卒業後の実社会で大いに活躍してほしいと願っています。

◆就職に向けてのアドバイス

土木という言葉は非常に古く、国家政治が固まりつつあった古代中国において、BC150年頃から使用されていたようです。また英語ではシビルエンジニアリングといわれているように、近代の土木工学は市民のための公共工学として発展してきたことから、土木の就職先は、大変幅広い分野に広がっており、どんな時代でも高い就職率を確保してきました。業種別では建設会社、設計コンサルタント会社、公務員などですが、そのほとんどが公共事業と深い関係を持っています。さらに最近は、公共的な観点から社会資本の整備を進め、老朽化した社会インフラの改修を行い、公共サービスの質向上に取り組んでいくのが、土木技術者の責務です。

## おすすめ 受験資格

在学中から受験可能な資格試験	建築系の資格	福祉住環境コーディネーター（1級・2級・3級）	建築施工管理技士（1級・2級 学科試験）
		宅地建物取引士	インテリアコーディネーター
		インテリアプランナー	土地家屋調査士
		マンション管理士	消防設備士（甲種・乙種）
		測量士補	
土木系の資格	技術士補（技術士一次試験）	2級土木技術者（土木学会）	
	土木施工管理技士（2級第一次検定試験）	造園施工管理技士（2級第一次検定試験）	
	管工事施工管理技士（2級第一次検定試験）	下水道技術検定（第1種・第2種・第3種）	
	下水道管理技術認定	測量士補	
	測量士	危険物取扱者（乙種）	
卒業後に受験可能な資格試験	建築系の資格	一級建築士・二級建築士	木造建築士
		建築施工管理技士（1級・2級）	技術士（建設部門）
		コンクリート診断士	コンクリート主任技士・コンクリート技士
	土木系の資格	技術士（建設部門・上下水道部門）	土木施工管理技士（1級・2級）
		コンクリート診断士	舗装施工管理技術者（1級・2級）
		コンクリート主任技士・コンクリート技士	